

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 14	項目名	<介護保険事業特別会計> 認知症施策推進事業費			主要な施策の 成果 ページ	149	担当 部署	健康福祉部 長寿いきがい課
予算科目	会計	23	介護保険事業特別会計(保険事業勘定)		総合計画 体系	分野	長寿・生きがい	
	款	3	地域支援事業費			基本方針	あんしんできる高齢期の生活への支援	
	項	2	包括的支援事業・任意事業費			施策	認知症対策の充実	
	目	5/8	任意事業費/認知症総合支援事業費		当初予算における区分	新規施策・拡大施策・ 重点施策 ・その他		
事務事業	727	任意事業費		↑ 該当するものを○で囲んでください				
	730	認知症総合支援事業費						

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) 急速な高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加が見込まれている。認知症についての正しい理解者を増やすとともに認知症の早期発見・早期対応をはじめ、その進行予防や介護を担う家族への支援、地域で認知症の人を見守り支えるためのネットワークづくりなど、総合的な認知症施策の推進に取り組むことが重要である。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 認知症の人とその家族をはじめとする市民 認知症の人とその家族を支える地域関係団体・関係者及び地域住民
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) 認知症があっても、認知症の人自らの意志に基づき、介護保険のサービスをはじめきめ細やかな福祉・医療サービスを利用し、適切な支援をうけて、認知症の人と家族が住みなれた地域や家庭で尊厳を保ちながら安心して生活を送ることができる「認知症があっても安心して生活できるまち」を実現する。
事業の内容(取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 補記に記入

■ 予算・決算状況

	当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	補記に記入					補記に記入				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
予算・決算額	20,747	12,137		8,610	0	20,155	11,790		8,365	0
前年度比	1,481%					1,854%				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	当初予算と決算額に多少の執行残がみられるが、事業としては、初期の目的を達成できた。									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	1,401	830		571	0	1,087	636		451	0

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	高齢化社会において、認知症に関する課題は、すべての市民が当事者となる可能性があり、積極的に取り組む必要がある。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	3	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	4	法令により実施することが義務付けられている	介護保険法第5条の2では、国および地方公共団体の責務として認知症に関する調査研究の推進等が定められており、国の「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」においても総合的な認知症施策の方向性が示されている。草津あんしんいきいきプランでも認知症対策の推進は大きな柱となっており、認知症になっても安心して生活できるまちの実現が求められている。
	4	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	4	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	2	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	4	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	高齢化に伴い認知症高齢者の増加が見込まれる中で、地域の実態に応じたネットワークの構築や支援体制の整備をはじめ、啓発等のソフト事業における事業費は、受益者が市民全員であることを鑑みると効率性が高い。
	4	コスト削減の余地はない	
	4	受益者一人当たりのコストは適正である	
	4	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	高齢化が進む中で、今後ますます継続的な取り組みが必要とされる。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	「草津市認知症施策アクション・プラン」に基づき、年度毎の進捗管理を行いながら計画的に実施している。
	3	受益者の評価が得られている	
	4	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	「認知症施策アクション・プラン」に沿った事業展開を行っており、関係機関・関係者で認知症施策に関する目標や役割、方向性について共有しながら取り組んだ。主に「普及・啓発の推進」「地域見守り体制の推進」の重点的な取組により、認知症に対する理解・見守り体制の醸成に寄与したと考えられる。					
事業に対する市民の意見、反応	認知症サポーター養成講座の申込件数は年々増加しており、大学や企業等の受講に広がっていることから、社会全体の幅広い年代層が身近な課題として捉え、地域づくりに取り組む必要があるとの意識が高まっている。認知症予防講座には、体験講座およびリーダー養成講座ともに多くの方の受講をいただいております。認知症に対する関心の高まりとともに、正しい理解者が増えていると考えられる。					
事業の今後の課題、将来展望	「認知症施策アクション・プラン」に沿った事業展開を図る。認知症について正しく理解してもらえるよう小中学校の協力を得るなど更なる啓発を行うとともに、早期発見・早期対応のための体制構築や認知症ケアの充実、また地域における見守り体制・ネットワークの充実を図っていく必要がある。					
※平成28年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		21,713	12,702		9,011	0
	27年度比 積算根拠	105%				
	<任意事業費(認知症施策総合推進費)> ○医療従事者向け認知症研修費 10千円(報償費10) ○認知症ケアマネジメント研修費 48千円(報償費30、消耗品費5、食糧費1、通信運搬費7、使用料5) ○認知症サポーター養成費 290千円(消耗品費59、印刷製本費195、保険料36) ○認知症施策推進会議費 244千円(報償費195、食糧費5、委託料44) ○その他 574千円(報償費60、旅費141、消耗品費373)					
	<認知症総合支援事業費> ○認知症地域支援推進員活動費 18,234千円(消耗品費1、委託料18,228、使用料5) ○認知症初期集中支援事業 2,313千円(報償費1,770、旅費143、消耗品費25、食糧費10、通信運搬費26、使用料339)					

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。

■ **補記** ※ 各項目の枠内に記入しきれないときは補記欄に記入してください。その際は当該枠内に「補記に記入」と記してください。

<事業の内容(取り組み)>

- ・認知症予防講座の開催
「体験講座」の開催
2回開催 受講者数:201人
「明るく楽しく脳活教室リーダー養成講座」の開催
1回開催 受講者数:23人
- ・医療従事者(受付員等)向け認知症研修の開催
2回開催 受講者数:34人 対象:開業医の受付員等
- ・徘徊SOSネットワークの充実、事前登録制度の導入
登録者数:41名
- ・徘徊模擬訓練の実施
地域安心声かけ訓練:2か所
(駒井沢・集町)事前勉強会、訓練実施。18人参加。訓練の様子をYouTube(草津チャンネル)へ掲載。
(老上学区)事前勉強会、訓練実施。27人参加。
- ・認知症ケアマネジメント研修
1回開催 受講者数:20人
- ・認知症ケアパスの作成
学区の医療福祉を考える会議等で協議をし、認知症ケアパス(認知症支援の早見表)を作成した。(4小学校区)
- ・認知症初期集中支援チームの検討
平成28年度の支援チーム設置に向け、チーム員の選定、研修を実施。
- ・圏域地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置
認知症地域支援推進員を地域包括支援センター6か所に配置。
- ・(市民提案事業)認知症カフェ開催
平成27年6月から月1回認知症カフェなごみを開催。(市民交流プラザ)
【午前:勉強会 午後:カフェを開催】参加者数:465人

<予算・決算>

*当初予算の状況

認知症予防講座開催費	212 千円	(報償費40、消耗品費171、食糧費1)
医療従事者向け認知症研修費	31 千円	(報償費30、食糧費1)
徘徊SOSネットワーク事前登録事業費	30 千円	(消耗品費30)
徘徊模擬訓練実施事業費	10 千円	(食糧費10)
認知症ケアマネジメント研修費	93 千円	(報償費60、消耗品費4、食糧費2、通信運搬費6、使用料21)
認知症ケアパス作成費	290 千円	(消耗品費124、通信運搬費64、使用料102)
認知症サポーター養成費	347 千円	(消耗品費13、印刷製本238、保険料36、備品購入費60)
認知症施策推進会議費	200 千円	(報償費195、食糧費5)
認知症啓発リーフレット購入費	508 千円	(消耗品費508)
認知症地域支援推進員活動費	18,228 千円	(委託料18,228)
(市民提案事業)認知症カフェ開催費	407 千円	(委託料407)
その他	391 千円	

*決算の状況

認知症予防講座開催費	197 千円	(報償費40、消耗品費156、食糧費1)
医療従事者向け認知症研修費	11 千円	(報償費10、食糧費1)
徘徊SOSネットワーク事前登録事業費	26 千円	(消耗品費26)
徘徊模擬訓練実施事業費	2 千円	(消耗品費2)
認知症ケアマネジメント研修費	20 千円	(報償費15、消耗品費4、食糧費1)
認知症ケアパス作成費	193 千円	(消耗品費54、通信運搬費60、使用料79)
認知症サポーター養成費	311 千円	(消耗品費45、印刷製本費187、保険料20、備品購入費59)
認知症施策推進会議費	173 千円	(報償費169、食糧費4)
認知症啓発リーフレット購入費	443 千円	(消耗品費443)
認知症地域支援推進員活動費	18,228 千円	(委託料18,228)
(市民提案事業)認知症カフェ開催費	407 千円	(委託料407)
その他	144 千円	